

管路管理の効率化を図り事業管理計画へ

極東技工コンサルタント

本社設計部 浜田 尚宏

高度経済成長期等に集中して建設された下水道を含む社会資本ストックは、今後急速に老朽化することが見込まれていることから、国内の社会資本整備は、建設から維持管理・再構築の時代に移行しつつあると言えます。さらに、近年では膨大な社会資本ストックのメンテナンスが課題とされており、限られたヒト・モノ・カネを効率的に活用しながら下水道経営の健全化を図るべき時代を迎えています。

当社は、下水道管路施設の適正管理業務を円滑に行うため、これまでに培った経験とノウハウを盛り込んだ自社開発の下水道台帳システム（パイプマネージャー®）を活用し、長寿命化計画ならびに地震対策計画に基づき立案される維持管理や再構築関連の事業計画を展開しています。

下水道事業者におかれては、都市の広域な事業計画区域を網羅している下水道管路ストックを持続的に保全するために、位置を検索できる地図情報と施設諸元を記録した属性データ、加えてメンテナンスの適正化計画（P）、適切な点検・調査の実行および改築・修繕措置（D）、適正管理の進捗ならびに効率的な再構築に関するチェック（C）、中・長期的な財政を踏まえた点検・調査頻度や措置の適正評価等をレビューのうえ適正管理計画の見直し（A）といった一連のストックマネジメントが円滑に行えるシステムの導入を推奨しています。

パイプマネージャー®は、従来の下水道台帳に必要な施設情報に加え、不具合の発生確率、×被災規模（影響の度合い）、より定量的に求められるリスク分析およびその評価を行い、点検・調査の実施あるいは措置を優先すべき施設の抽出が可能であり、下水道管路施設の適正管理と計画的な再構築事業の量および財政の平準化に貢献できる計画支援ツールです。

極東技工コンサルタントは、ヒトが安全で安心できる都市生活を持続するため、次世代型の施設管理ツールを活用した事業管理計画に貢献します。

下水道台帳システムによるリスク評価、調査データ蓄積（例）

